

令和 6 年度八尾市産業振興会議 第 2 回本体会議 議事録	
日 時	令和 6 年 9 月 30 日（月） 15 時～17 時
場 所	八尾商工会議所会館 3 階 セミナールーム・多目的室
出席者	< 委員 13 名 > 山縣座長、木下副座長、今岡委員、岡田委員、樫本委員、北本委員、黒木委員、中谷委員、西川委員、松井委員、美馬委員、三宅委員、山田委員 < 事務局 7 名 > 岩井部長、後藤課長、亀村参事、山田課長補佐、岡田、杉原、運営支援事業者 永阪氏
－事務局による司会で次第に沿って進行－ 1. 開 会 事務局より、乾委員、佐藤委員、佐原委員、杉山委員、寺西委員、吉田委員の欠席を報告。併せて、全委員 19 名のうち 13 名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第 3 条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることを報告。 産業政策課長あいさつ 2. 議 事 －山縣座長による議事進行－ (1) チェックイン グラフィックファシリテーターの永阪氏より、チェックインの方法について説明。 (2) データでみる市の現状について 事務局より資料に沿って説明。 (3) 前回ワークのふりかえり 事務局より資料に沿って説明。 (4) グループワーク 座 長：八尾市の現状や前回ワークを踏まえ、今から行うワークは二つの言葉で整理したい。それは「問題」と「課題」である。問題は複雑に絡み合う状態で、すぐにそれだけで解決できるわけではない。「こういうのが問題だよな」というのはイメージしやすい。それを実際に解決するためには、どこからアプローチして	

いくのかを考える必要があり、それを「課題」とする。まずは「問題」を列挙してほしい。八尾市内での生活というレベルもあれば、八尾市全体というレベル、産業というレベル、さらに大阪や日本、そして世界という視点を交えたレベルでも構わない。思いつくままに「問題」を挙げ、「課題」を明確化してほしい。

※各グループで話し合った内容を、各グループから1名が発表。

■グループワーク1（北本委員、西川委員、山田委員）

委員：八尾市は宿泊施設が少ないため、市外からの来客に対応できないことがあり、大人数で食事ができる場所も限られている。また、久宝寺駅周辺があまり活用されておらず、もったいないという印象がある。さらに、学校関係の課題（不登校児童など）も感じている。これらを踏まえ、地域で学生がチャレンジできる場が必要だと思った。たとえば、新しいホテルを建設し、そのレストランを学生たちの実践の場として提供することで学校関係の課題を解決しつつ、市外から人を呼び込める話題性に繋がるのではないかと感じる。

■グループワーク2（今岡委員、黒木委員、中谷委員、松井委員）

委員：八尾市はインフラ整備が必要だと感じるが、一方で現代は便利さを求めすぎている面があるのではないかと思う。また、個人商店の減少も課題と感じている。このような地域の課題に対して、市民の問題意識が薄れており、隣人や地域のつながりが希薄となり、『まちで子どもを育てる』という意識が弱まっているように思う。さらに、八尾市はブランド発信力が弱く、空港の活性化も十分に活かしていないように感じるので、発信力を高めるためには、モデルとなる先進例を見つけることが重要だと考える。

■グループワーク3（岡田委員、樫本委員、美馬委員、三宅委員）

委員：八尾市は観光資源やホテルが少なく、市外から人を呼び込むのが難しいという課題がある。また、世代を超えたつながりもあまりなく、まち全体で子どもを育てる意識が不足しているように思う。さらに、高齢者が市内を移動する手段が少ないことも課題と感じる。これらを解決する方法として、『ほほえみのまち、八尾』というスローガンを掲げてはどうかと思う。例えば、タイの『ほほえみの国』のように、八尾に来るとみんなが笑顔で迎えてくれるという印象をスローガンに込め、それをさまざまな事業に取り入れることで、コミュニケーションが円滑になり生産性を高めていけるのではないかと考えた。

座 長：今回グループで出た意見は、次回以降の検討部会で詰めていく。八尾には意外と人が集まる場所が少ないという指摘が多かった。それは、交通手段が限られていることが、問題を加速させている一つの要因かもしれない。ついては、八尾市は生活基盤が脆弱であるという側面があるように思う。今期に出すべきアウトプットとしては、「八尾とはどのようなまちなのか」を産業振興会議の視点から見つけていくことが良いのではないか。みんなが笑顔でいられるまちをどのように実現できるのか、それを産業振興会議の視点を持って議論していきたい。

(5) データでみる大阪・関西万博
事務局より資料に沿って説明。

(6) 市内事業者アンケート報告
事務局より資料に沿って説明。

(7) グループワーク

座 長：八尾市のこれから先（万博後である 2025 年以降）のことについて、問題や課題に対してどういった点を大切にしていけるべきか、どんなスタンスで向き合っていけばいいのか、皆さんで意見を出し合いたい。少し抽象的な話にはなるが、このグループワークでは、課題解決のための基本軸を見つけたい。それは、例えば、人が集まらない課題があったときに、人を集まりやすくなるためにはどういうところを大事にすればいいのか、それを思いつくままにアイデアを出してほしい。

■グループワーク 1（北本委員、西川委員、山田委員）

委 員：このグループでは、地域やインフラといった視点ではなく、市民一人ひとりの精神的な部分について話をした。まちを良くするには、他者への『愛』が必要だと思う。そして、まちに課題が生じたときには、それを単なる『問題』として捉えるのではなく、ゴールへ向かうための通過点として捉えることが大切だ。そのうえで、失敗を恐れずに積極的に行動していく姿勢が求められると考える。

■グループワーク 2（今岡委員、黒木委員、中谷委員、松井委員）

委員：このグループでは、『他者に寄り添うまち』が必要だという意見が出た。私が持っている店では、若者を多く雇用しているが、その若者に『不満』を聞くと、不満はたくさん出てくる。そこで思ったのは、『働きたくなる会社』を目指すことが大切なのではないかということだった。その考え方からも、『住みたくなるまち』が八尾市には必要だと感じる。

■グループワーク 3（岡田委員、樫本委員、美馬委員、三宅委員）

委員：他者に関心を持つ社会が、コミュニケーションを円滑にし、生産性を向上させると思う。そこで、八尾市が主体となり、地域コミュニティのキーマンを集めて活動母体を作り、八尾市の各地で『おせっかい』という名のもとに活動を展開していくことが大切だと考える。『おせっかい』という、人へのやさしさを八尾の新しい価値基準として啓蒙することで、課題解決に繋がるのではないかな。

座長：本日の会議では、八尾市らしいさまざまな意見が出た。次回につながるような意見も多く出て、非常に有意義だったと思う。今回出た意見を出発点に、『実際にやってみる』という方向性をどう設定するか、またどのように絞り込んでいくか、さらに価値観に基づく意見をどう整理していくかなど、これらのスタンスやアプローチ方法を、次回の検討部会でさらに深めていきたいと考える。

(8) コ・クリエーションスペース めか床について
事務局より資料に沿って説明。

(9) その他連絡事項について

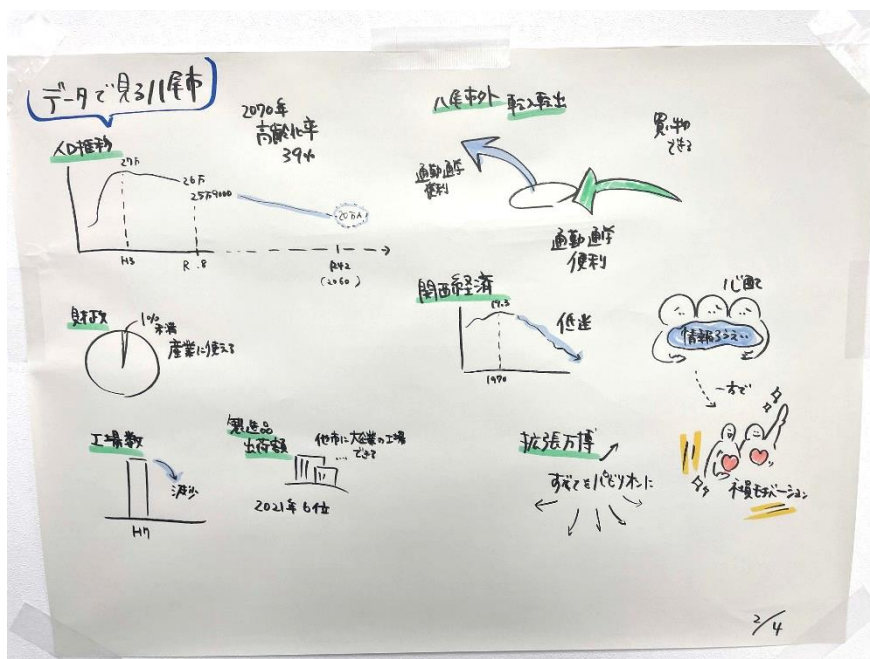
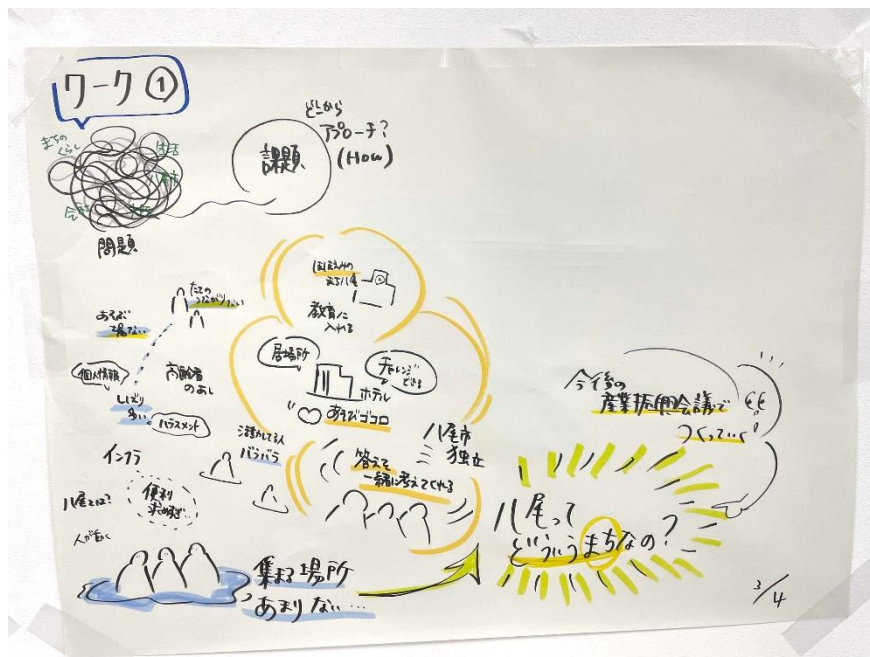
次回の産業振興会議は「検討部会」となり、令和6年10月28日(月)18時30分から開催予定。

6. 魅力創造部長あいさつ

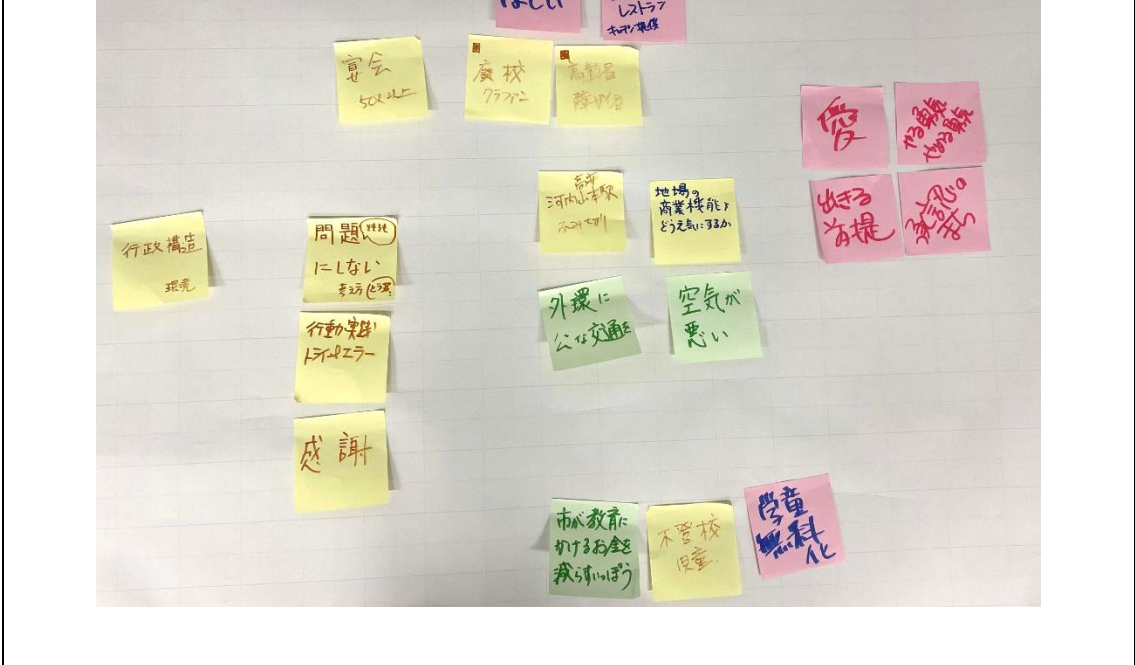
7. 閉会

以上

＜参考：当日のグラフィックレコーディング＞



■グループワーク 1（北本委員、西川委員、山田委員）



■グループワーク 2（今岡委員、黒木委員、中谷委員、松井委員）



■グループワーク3（岡田委員、樫本委員、美馬委員、三宅委員）

